

## 北里大学雑誌特集記事索引の変遷について

宇野彰男

北里大学医学図書館

北里大学医学図書館では 1971 年の設立以来、参考係によって雑誌特集記事索引を作り続けている。当初は図書カードを利用し、一枚ずつ手書きで作成されていた。それをカードケースに収納し、図書カードと同様に利用者が検索して利用できるようになっていた。

収録対象は図書館で受け入れている和・洋の雑誌全てであり、洋雑誌までを対象としていたのは他にはあまりなかったと思う。ただこれが利用者にどれだけ使われていたのかは、よくわからないが、参考係が文献調査する際にはよく使われていた。図書カードには特集記事名、掲載誌名、巻・号・ページ・年が記載されており、MeSH が付けられ、複数の MeSH がある場合はその数だけカードが作成され、MeSH 順に配列されていた。

1986 年に看護学部が開設され、その図書館の担当をするようになったのを機会に、パソコンを使ってシステム化を考え、dBASEIII Plus を購入した。プログラミングの実験として最初にとりかかったのが特集記事索引であった。この頃はリレーショナル・データベースの知識も少なく、できあがったものは単純でカード型と変わらず、以前の図書カード 1 枚を 1 件のレコードにただけであった。しかしこれでもパソコン上で検索できるメリットは大きく、医学図書館の検索用システムで検索できるようにして、学生などにはよく使われていた。

看護学部図書館でも特集記事索引を作ることにし、こちらはよりリレーショナルらしい改良プログラムを作成できた。この後十数年ほとんど同じプログラムで入力作業を続けてきた。これはそれぞれの図書館の入力担当者の努力によるところが大きい。まさかこのプログラムを 10 年以上も使うとは思っていなかったのも、ご多分に漏れず 2000 年問題の時は、その修正に大変な苦勞をした。

学内にデジタルフォンが導入されたときは、この機能を利用して、接続された端末からも検索できるようにしたが、これは情報科学の教員・技術員の協力によるものであった。その後インターネットが使えるようになると、今度は Web で検索できるシステムも作ってもらった。これにより学内だけでなくどこからでも利用できるようになったわけであり、無料の簡易なデータベースというわけで、色々なところでリンクされて利用されていたようである。

このように利用の方法は変わってきたが、基本の入力システムは MS-DOS 版 dBASEIII のままであり、しかも NEC の 98 シリーズでしか動かないとあって、さすがに動かせるパソコンがなくなってきたので、2004 年には UNIX サーバーによるシステムを開発した。今回は開発を業者に依頼せざるを得なくなり、前のシステムのような手作りの良さは失われたが、プロによるだけに優れている点も多い。

北里大学雑誌特集記事索引の URL

<http://mlib.kitasato-u.ac.jp/pub/>